

## 令和3年度一橋大学入学式 祝辞

令和3年4月4日  
楽天グループ株式会社  
代表取締役会長兼社長  
三木谷 浩史

この春、一橋大学に入学される新入生の皆さん、ご入学誠におめでとうございます。  
昭和63年商学部卒の三木谷浩史です。皆さん、入学するということで、ワクワクドキドキしていると思います。

私が入学した時は、バブル期で日本の経済が絶好調の時代でした。当時は大学もかなりお  
おらかで、今とはだいぶ状況が違ったのではないかと思います。

そんな中で、私は勉強もさることながら、体育会庭球部に所属し、最後はキャプテンを務  
めました。部活も本当に真剣にやり、勉強とともに自分の人間形成という意味において、か  
けがえのない機会を母校である一橋大学から頂きました。

その後、日本興業銀行、今のみずほ銀行に入行し、ハーバードビジネススクールに留学し  
ました。帰ってきた後に、銀行を退職し、ゼロから楽天という会社を立ち上げましたが、当  
時は安定した大企業を辞めてベンチャーを作るというのは、考えられないことでした。その  
ときのバックボーンになったのが、一橋大学での経験であり、ハーバードビジネススクール  
で学んだことや培ったネットワークだと思っています。

これから大きな変革が起き、おそらく、10年後、20年後の社会というのは皆さんが想像  
している以上の大きな変化を経た社会になっているでしょう。そういう中で、どのようなこ  
とを経験し、学び、そして準備していくかということは、極めて重要なのではないかと思  
います。

皆さんが入学する一橋大学には基本的には社会系の学部しかありません。このテクノロ  
ジの時代に工学部やコンピュータサイエンスといった学部がない大学ですが、一方で一  
橋大学には「キャプテンズ・オブ・インダストリー」というモットーがあります。つまり、  
産業自体をリードしていく人材を育成するというのが学校のミッションです。産業界のリ  
ーダーになるべく、資質を十分に磨き、そして様々な教養を身に着ける。専門知識も重要で  
すが、いわゆるリベラルアーツ、つまり教養を広げることによって未来を予見し、それに対  
してどのようなことをするべきか、いうことを考える力をぜひつけていただきたいと思  
います。また、日本の国内に留まるだけでなく、短期でも長期でも留学等して、ぜひ見聞を

広げてほしいと思っています。

国立という最高の環境の中で大学生活を送れるこの4年間を充実したものにして下さい。応援しています！